

2023年度 学生評価委員会報告書

2024年3月31日 学生評価委員会

目次

2023年度「学生評価委員会」の活動について

2023年度 学生評価委員会 活動報告

第1回学生評価委員会 開催報告

第2回学生評価委員会 開催報告

2023年度「学生評価委員会」の活動について

1. 学生評価委員会編成の経緯

共立女子大学・共立女子短期大学では、大学・短期大学の諸活動を点検・評価する中で在
学生からも広く意見等を募り、将来へ向けて改善していくことを目的として、大学・短期大学自己点
検・評価規程に従い大学・短期大学自己点検・評価実施委員会のもとに、2023年4月1日付で
「学生評価委員会」を編成した。

委員の選出にあたっては各学部・科から2名ずつの推薦を受け、合計20名が学長より委員とし
て委嘱された。

2. 2023年度学生評価委員会の開催

・第1回学生評価委員会

開催日時:2023年7月27日(木)17:00~18:40

テーマ:「授業評価アンケート」のよりよいあり方について

開催形態:対面グループワーク形式

(資料2 2023年度第1回学生評価委員会 開催報告)

・第2回学生評価委員会

開催日:2024年1月24日(木)17:00~18:30

テーマ:「リーダーシップの共立」の取組みについて

開催形態:対面グループワーク形式

(資料3 2023年度第2回学生評価委員会 開催報告)

3. 2023年度の活動概要

第1回目の活動では、事前動画視聴やアンケートを通じて授業評価アンケートの現状と課題につ
いて学生の意見を収集し、グループワークでの討議を行った。その結果、授業評価アンケートが授
業改善に非常に有意義な手段であると同時に、実施時期やアクセスの問題、フィードバックの方法
などに課題があることが明らかになった。提案として、アンケートへのアクセス改善、授業時間内
での回答時間の確保、フィードバックの充実が挙げられた。

第2回目の活動では、「リーダーシップの共立」に焦点を当て、事前アンケートやグループワークを
通じて学生からの意見や提案を集めた。この活動を通じて、「共立リーダーシップ」の認知度や教育
目標の理解の深化が見られたが、具体的な教育内容の認知や活動機会の実質化については課題
が残った。提案としては、「共立リーダーシップ」の教育内容の再説明、学修機会や振り返りの機会
の充実があげられた。

両活動ともに、学生からの積極的なフィードバックと具体的な提案が寄せられ、今後の授業改善
やリーダーシップ教育の質向上に向けて有益な示唆が得られた。学生の声を直接聞き、それを教
育活動に反映させるプロセスが、より良い学修環境の構築に貢献することが期待される。2024年度
には、高等教育開発センター及びリーダーシップ教育センターがこれらの提案を基に検討を進めて
いく予定。

2023年度第1回学生評価委員会 開催報告

1. 開催概要

日時：2023年7月27日（木）17:00～18:40

テーマ：「授業評価アンケート」のよりよいあり方について

開催形態：対面グループワーク形式

目的：2012年度から全学的に実施してきた授業評価アンケートについて、授業改善を図るための重要なエビデンスとして適切・有効に機能しているかを、学生の視点から評価してもらう。

(評価の対象)

- ・授業評価アンケートの活用（設問項目、実施時期、対象、方法、回答率、フィードバック）

(評価の観点と活用方法)

観点	評価された内容の活用方法
目的・ねらいに対して、学生はどのように実感しているか。	現状把握
有効な活用方法・事例の収集	他学生への共有、改善活動
不満・要望はあるか。	改善活動

2. プログラム：

当日出席者：13/20名（出席率65%）

事前アンケート回答者：19/20名（回答率95%）

事後アンケート回答者：17/20名（回答率85%）

事前活動

1) 【事前動画視聴】

- ・前年度までの活動内容（副学長説明による本委員会の目的の理解）

2) 【事前アンケート】

- ・授業評価アンケートの回答状況、意義、回答時期、感想

当日の活動

1) 開会の挨拶（副学長）

「学生評価委員会」の意義（前年度活動の外部評価委員評価コメントの共有）

「学生評価委員会」の役割、位置づけ

2) 本日の活動の目的と流れ説明

3) グループ意見交換(兼アイスブレイク)「『授業評価アンケート』に関するこれまでの経験や考え」

4) 説明

「授業評価アンケート」のねらいと意義について

- 5) グループワーク【協議】 「『授業評価アンケート』をより有意義なものにするために」
- 7) グループごとに出た意見を発表
- 8) 大学・短大側からのフィードバック（副学長）

事後活動

- 1) 【事後アンケートの回答】
- 2) 【kyonetマイステップの登録】

3. 学生評価の総括：

今回は「『授業評価アンケート』のよりよいあり方について」のテーマのもと、事前アンケート、対面での委員会活動、事後アンケートを実施して学生から評価を受けた。結論として、「授業評価アンケート」は学生から授業担当者に直接意見を伝えられることから授業改善につながる非常に有意義な方法であると評価された一方で、実施時期やアンケートへのアクセス、フィードバックの方法等に関し課題が指摘された。

授業評価アンケートについては19名中18名が毎学期履修している授業に対して概ね回答していると回答しており、あまり回答していない学生は1名であった。当日のグループワークを通して、教員によってアンケートのフィードバックの熱量に差があったり、回答のための案内の方法が異なったりしていることが分かった。今後の授業評価アンケートのよりよいあり方について大学・短期大学側に期待することとして、授業時間内における回答時間の確保、kyonetからアンケートへのアクセスのしやすさ、視認性、アンケートを活用してどのように授業を改善したのかについて学生への説明を徹底することなどがあげられた。事前アンケートの結果から、授業評価アンケートは授業を受講している学生目線の意見を伝え、授業改善につながるためのツールとして有意義である一方で、アンケート結果がどのように反映されたのかが不透明であると感じる学生が多くいることが分かった。

当日のグループ活動では、教員からのフィードバックがあると学修そのものやアンケート回答へのモチベーションがあがること、学生の声が直接教員に届くのは重要であるということ、授業時間内に回答の時間を設定しない授業があること、設問に使用されている文言が学生には馴染みがなく分かりにくいこと、kyonetにおけるアンケートへのアクセスの悪さなどの意見があげられた。

事後アンケートの結果から、授業評価アンケートの実施の時期・対象・方法について、17人中12人が時期や方法を改善すべきと回答した。具体的には、全授業回のうち半分程度が進行した時期に実施するという意見や、授業の冒頭で回答の時間を設ける、フィードバックを必ず行う、設問の文言を学生にも分かりやすいものにする、アンケートへのアクセスの方法を見直す必要があるといった記述があった。

これらのことから、授業評価アンケートについての課題は、学生に結果がフィードバックされない授業があること、自身の履修期間内に反映がされないこと、回答の時間の案内の方法に工夫が必要であること、アンケートの設問に記載の文言に馴染みがなく分かりにくいこと、kyonetにおけるアンケートへのアクセスの悪さであることが明らかになった。特に、フィードバックについて言及した意見が多くあり、教員からのフィードバックの熱量に差があることや、そのことが学生のモチベーションに少なからず影響していることが分かった。

良い点としては、学生の意見が直接伝えられること、学生視点の要望や感想を伝えることができるため今後の授業改善につながるといった点が評価された。

今後の提案としては、学生へのフィードバックを必須にすること、授業時間内かつ授業の冒頭で回答の案内をすることや、回答を開始する授業回の検討、過去のアンケートの回答から改善された事例や活用事例を学生に紹介することが必要といった意見があげられた。

その他、学生評価委員会の運営に関することでの意見感想については、グループワークを通して学部・科を超えて様々な意見を知ることができ多くの発見があった、議題に関する問題や改善策を見出すことができてよかった、疑問に思っていたことに教員から意見をいただける形式が分かりやすかった、グループワークの時間がもう少しあるとより話し合いができたなどの意見があった。

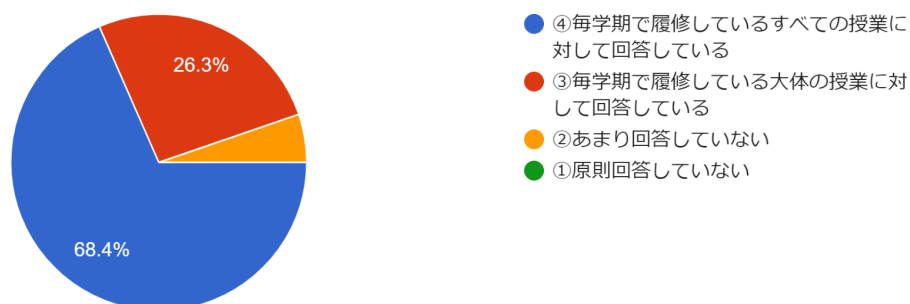
4. 事前アンケート結果の概要：

総回答件数：19件/20人

【設問1】 「授業評価アンケート」 への回答状況について

【設問1】 「授業評価アンケート」 にどのくらい回答していますか。

19 件の回答

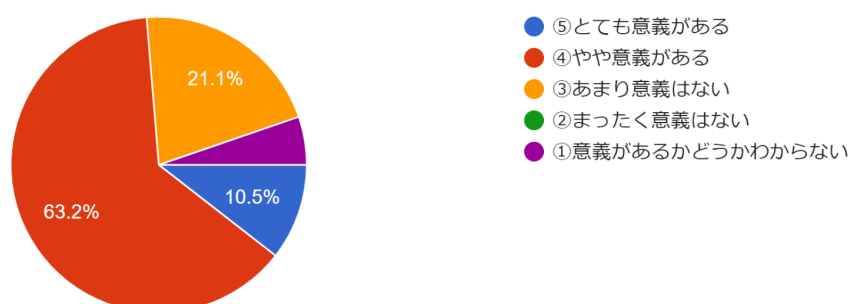


【設問1-2】 「授業評価アンケート」 に回答しなかった理由を教えてください。
忘れてしまう (1件)

【設問2】 「授業評価アンケート」 という取組には意義があると思いますか。

【設問2】 「授業評価アンケート」 という取組には意義があると思いますか。

19 件の回答



【設問3】 【設問2】 の回答の理由を教えてください。

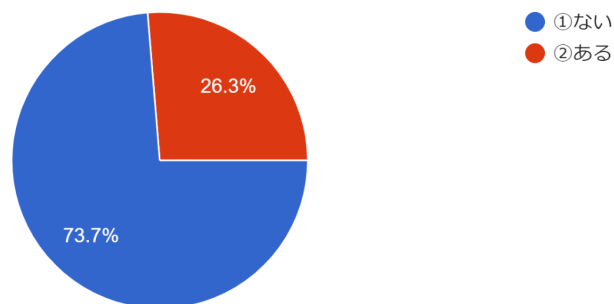
「意義がある」と回答した理由としては、「自分自身の半期間の取り組みを振り返る事ができるし、授業の質の向上に繋がるから。」「匿名なので授業を通して感じたこと(良かった点や改善してほしい点)を素直に書けるから。」などの記述があった。

「意義がない」と回答した理由としては、「アンケートに回答していない学生や適当に答えている学生が多いから。」「先生によって、それを参加に授業改善を考えてくださる方もいれば、変えない方もいるから。」などの記述があった。

【設問4】 「授業評価アンケート」の実施時期・方法に問題点を感じたことはありますか。

【設問4】 「授業評価アンケート」の実施時期・方法に問題点を感じたことはありますか。

19件の回答



【設問4-2】 実施時期・方法にどのような問題があったかを教えてください。

回答としては、「授業評価アンケート自体最後に行く先生が多く、自分が受けている際にその意見が反映されない。」「新しい資料や課題がkyonetのクラスプロファイルにアップされていないか確認する際、各授業名の右側に出る「NEW!」のアイコンが目安になっていたが、授業評価アンケートに答えていないとずっと「NEW!」のアイコンが消えない。これによって、資料や課題を見落とすことが怖いため、私は開講分の全ての授業が終わる前にアンケートに答えている。私の周りの友人にも、この時期から課題の提出を忘れる人が増えているように感じる。従って、テストやレポート提出が始まる忙しい期間に早めにアンケートを実施するのは双方にとって不利益だと思った。」などの記述があった。

【設問5】 「授業評価アンケート」に協力してよかったと思ったエピソードがあれば教えてください（教員からのフィードバック、次年度以降の授業への反映等）

回答としては、「個人単位のフィードバックはなくとも、レポートの評価ポイントや授業の狙いが書かれていたので自身を振り返るきっかけとなった。」「授業評価アンケートの結果が公開された際、担当教員からのコメントがあると嬉しい。」「先生が皆の意見を参考にしたいと言って下さった。」などの記述があった。

5. 当日委員会活動の概要：

開会の挨拶で学生評価委員会の意義、役割を確認し、事前にアンケートを実施した「授業評価アンケートについてどのような経験や考えをもっているか」についてグループワークを行った。大学・短大側（高等教育開発センター）から「授業評価アンケート」についての実

施経緯、趣旨・目的、実際の設定や活用事例、現状と課題について説明があり、その後に「『授業評価アンケート』をより有意義なものにするために」についてグループワークを行った。グループごとにまとめた具体的な改善策や提案について発表があり、大学・短大側からフィードバックを行った。

グループワークでまとめた意見の発表の内容は次のとおりであった。

Aチーム

- ・授業の最終回で授業時間内に実施するのが良いのではないか。
- ・携帯版はアンケートがみつけにくいので携帯でも分かりやすい場所にする。クラスプロファイルや授業資料に入れてほしい。
- ・記述式の設定（感想・意見等）は学生の回答を必須にすると同時に、教員のフィードバックも必須にする。
- ・必ず授業時間内に回答時間をとる。前年度の意見の内容と改善内容を授業で学生に伝えるのが良いのではないか。

Bチーム

- ・フィードバックについては教員からのコメントがない授業が多く、モチベーションがあがらないため、必ずフィードバックをする。フィードバックがあつたとしても授業に関してのものではない場合も多いため、アンケート結果に関すること及び、今後どのように改善していくのかを提示する。
- ・授業時間内に回答時間を設けたら回答率は良くなるのではないか。授業の最後にすると回答が終了した学生から退室できてしまうため授業の冒頭に回答させる。
- ・匿名と分かっているにもかかわらず本当のことを書きにくい。
- ・理想としては自分が履修している授業期間内に改善してほしい。

Cチーム

- ・回答の時期については最後の授業で実施するとテスト勉強をしたい気持ちが勝ってしまい、回答がいい加減になってしまうため、8回目など半分くらいの授業回かつ授業の始めに実施する。授業期間の中間になると自分が受けている期間中に実感できるため改善有無が分かりやすい。
- ・回答期限を明確にしてほしい。
- ・アンケートの設定が長いため短くする。また、学生にとって文章や単語が馴染みがなく難しいため学生にも分かりやすいものにする。
- ・フィードバックの方法は、学生からどのような意見があつたのか開示してほしい。また、アンケートで改善要望があつたうえで改善ができないのならば、できない理由を説明してほしい。
- ・アンケートを開くまでの工程が多いこと、kyonetがつながりにくいこと、アンケートを見つけにくいことから回答率が落ちてしまうと思われるのでGoogleフォームやQRコードなどのような学生が多くの工程を踏まずにアクセスできるような方法に変更する。

Dチーム

- ・最終的な成績評価のフィードバックがないため、何を以ってつけた成績なのかが分かりにくい。フィードバックのタイミングで学生に伝えると成績の納得度があがるのではないか。
- ・アンケートの活用の一つとして、授業賞と反対にペナルティを実施するのはどうか。
→学生の意見を反映されなかったらペナルティとすることで学生もしっかり回答をするのではないか。

- ・授業時間内に回答時間を設けることで回答率はあがると考えている。
- ・kyonetで一覧にし、アンケートへのアクセスをしやすくする。（アンケートボタンを押下すれば全ての授業のアンケートが一覧で出てくる等）
- ・授業賞が実施されていることについて学生に伝えることで学生も意図を理解して回答するのではないか。

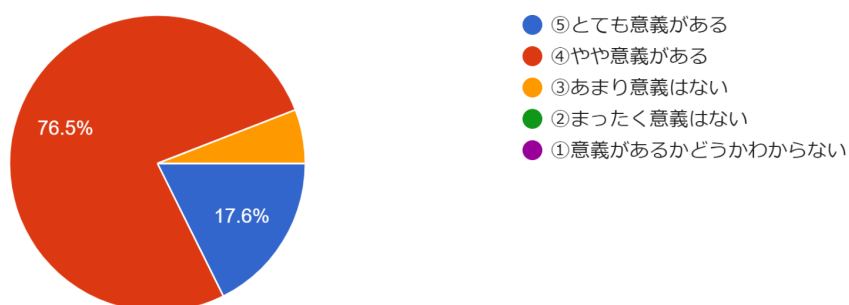
6. 事後アンケート結果の概要：

総回答件数：17件/20人

【設問1】改めて、「授業評価アンケート」という取組には意義があると思いますか。

【設問1】改めて、「授業評価アンケート」という取組には意義があると思いますか。

17件の回答



【設問2】設問1の回答の理由を教えてください。

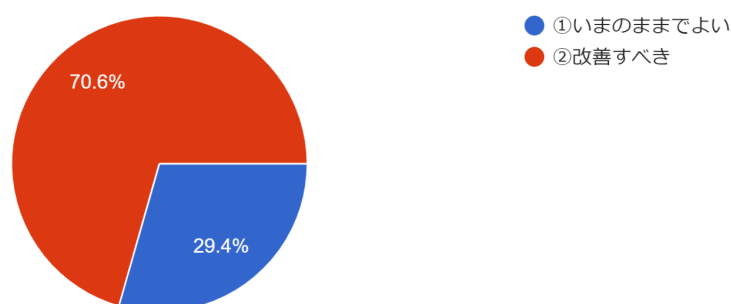
「意義がある」と回答した理由としては、「学生側からの視点を伝えることができ、授業の質の向上につながるから。」「教授が一方的に授業を行うのではなく、一緒に授業を行っているという気持ちになるのではないかと思うから。」などの記述があった。

「意義がない」と回答した理由としては、「回答率などを含めて改善の余地があるから。」「フィードバックがないのは、アンケートをやる意味について疑問に思ってしまうから。」などの記述があった。

【設問3】「授業評価アンケート」の実施の時期・対象・方法について教えてください。

【設問3】「授業評価アンケート」の実施の時期・対象・方法について教えてください。

17件の回答



【設問4】「授業評価アンケート」をより有意義なものにするために必要なことなど、意見や提案があれば教えてください。

回答としては、「学生側に感想や要望をきちんと書かせ正答率を上昇させることはもちろん、先生側にもきちんとフィードバックしてもらい、相互にモチベーションを上げられるようにする」「QRコードから回答できるなどアンケートにアクセスしやすくする」などの記述があった。

【設問5】 その他、学生評価委員会の運営に関することでのご意見・ご感想をお聞かせください。

回答としては、「グループワークを通して様々な意見を伺うことができ、議題に対する問題や改善策を見出すことができてよかった。もう少しグループワークの時間があるとより話し合いができたかなと思う。」「もっと堅い委員会を想像していたが、とても楽しく参加できた。また、初対面の人でもそれぞれが積極的に意見を出していたため、密度の濃い話し合いができたと思う。」「参加したかったが、期末テストの日程の途中での実施だったので、出席が難しく感じてしまった。」などの記述があった。

以上

2023年度第2回学生評価委員会 開催報告

1. 開催概要

日時：2024年1月24日（木）17:00～18:30

テーマ：「リーダーシップの共立」の取組みについて

開催形態：対面グループワーク形式

目的：「リーダーシップの共立」「共立リーダーシップ」が実質化（浸透）しているか、「共立リーダーシップ」の育成が正課教育や正課外活動で実際に（どのよう）に展開されているかを点検・評価する

（評価の対象）

- ・「リーダーシップの共立」の取組みの実績状況（認知度、参加度、内容、課題）

（評価の観点と活用方法）

観点	評価された内容の活用方法
「リーダーシップの共立」を目指して行っている学内の様々な取組み（DPの改訂、授業/正課外学修の改善、広報その他）の認知度、活動への参加度はどれくらいか。	現状把握
「リーダーシップの共立」を意識した学修活動（正課/正課外）に参加してどのような手ごたえ/課題を感じているか。	他学生への共有、改善活動
「リーダーシップの共立」を目指して行う取組みの内容、実施時期/方法、優先順位などについての、意見・不満・要望。	改善活動

2. プログラム：

当日出席者：12/20名（出席率60%）

事前アンケート回答者：15/20名（回答率75%）

事後アンケート回答者：17/20名（回答率85%）

事前活動

1) 【事前アンケート】

- ・「リーダーシップの共立」の取組みの認知度、授業受講状況、正課外活動の参加状況、「リーダーシップの共立」の確立に向けて重要だと思う取組み内容

当日の活動

1) 開会の挨拶（副学長）

「学生評価委員会」の意義（前年度活動の外部評価委員評価コメントの共有）

- 「学生評価委員会」の役割、位置づけ
- 2) 本日の活動の目的と流れ説明
 - 3) グループ意見交換(兼アイスブレイク)「リーダーシップに関するこれまでの経験や考え」
 - 4) 説明
「共立リーダーシップ」と「リーダーシップの共立」について
 - 5) グループワーク「リーダーシップの共立をより実質的なものにするために」
 - 6) グループごとに出た意見を発表
 - 7) 大学・短大側からのフィードバック (副学長)

事後活動

- 1) 事後アンケートの回答
 - ・ 「リーダーシップの共立」に対する関心の変化、「リーダーシップの共立」の確立に向けて重要な項目、今後自分が意識して取り組んで行きたいこと、意見、提案、学生評価委員会の運営に関する意見や感想
- 2) kyonetマイステップの登録

3. 学生評価の総括：

(1) 全体概要

今回は「『リーダーシップの共立』の取組み」をテーマに、事前アンケート、対面での委員会活動、事後アンケートを実施して学生から評価を受けた。

活動を通じて、「リーダーシップの共立」が学生に周知されており、大学として「共立リーダーシップ」を養う活動機会についても正課・正課外問わず行われていた点が評価された。

課題としては「共立リーダーシップ」の教育目標やカリキュラムとの対応関係といった「『共立リーダーシップ』の内容」について十分に認知されていない点、「共立リーダーシップ」育成のための活動機会を活用できておらず実質化されているとは言えない点、評価方法や振り返りの機会の確保や周知の方法、学内での意識合わせが必要であるといった点が課題が指摘された。

これらを踏まえて以下2点が提案された。1点目として、「『共立リーダーシップ』の説明を学生と教員に改めて行うこと」があげられた。リーダーシップ教育を実践する科目は372科目あるが、課題にあげられているとおり、そのようなカリキュラム体系そのものを含めて具体的な教育内容について十分に認知されておらず、浸透が十分でないことがうかがえた。そのため、学生に対しては授業内でルーブリックを用いた説明を必ず行うとともに、教員に対しても大学が掲げる「共立リーダーシップ」の要素等に関する意識合わせを行う機会を提供することが提言された。そのうえで、学生と教員が同様に「共立リーダーシップ」を理解したうえで学修活動を充実させることが求められる。

2点目として、「リーダーシップ活動の際の学修機会や振り返りの機会の充実」があげられた。特に「共立リーダーシップ」育成のための活動機会の一つでもあるグループ活動において、成果だけではなく取り組みの過程を評価することや、学生同士の他者評価や教員からの見守り評価を取り入れること、および学修機会としては、所属をこえたグループ活動の導入が提言された。

評価については、グループ活動において、グループの成果の評価だけでなく協働活動の過程の評価も必要であり、過程の評価において個人を対象とした評価や他者評価を取り入れることによって個人の強みの評価、自分の活動の振り返りを行うことができるようになることが提言された。

所属を超えたグループ活動の導入については、学部・科や学年を超え、異なる専門性をもつ学生同士が協働活動を行うことで多様な意見が出るだけでなく適度な緊張感が生まれることで学修の活性化につながり、学年やスキルを問わない「共立リーダーシップ」活動の質向上に繋がるため、このような観点での学修機会の充実が提言された。

(2) 活動別の総括

事前アンケートでは、15名中15名が本学が「リーダーシップの共立」を目指した取り組みを実施していることについて知っているという回答していた。また、「共立リーダーシップ」の重点科目履修の経験や正課外活動に参加したかといった問いに対して「分からない」という回答が半数以上を占めていた。これらのアンケート結果から、学生に対して本学が掲げる「共立リーダーシップ」の教育目標への理解とカリキュラムとの対応関係の認知度の低さが課題であることが分かった。

当日のグループ活動では、372もの科目がリーダーシップ教育を実施する科目として設定されておりリーダーシップが養成されていることを説明した。しかしながら、学生の中ではリーダーシップの養成に対応した科目が372科目設定されていることや、自分がそれらの科目を履修しているという認識がない場合もあるため、中にはリーダーシップに対する意識が低い・認識齟齬がある学生も存在すること、活動の際は意識づけのために都度「共立リーダーシップ」についての説明が必要であること、グループ活動の評価はその過程についても評価するべきであるなどの意見があげられた。

事後アンケートにおいては、「リーダーシップの共立」の取り組みが十分に行われているかを5段階で評価する問いに対し、17名中10名（58.8%）が4以上と評価した一方で、3以下と評価した委員が7名（41.1%）おり、学修機会が必ずしも十分ではないことが分かった。

「リーダーシップの共立」の確立に向けて重要な点としては、学生が大学での学修を「共立リーダーシップ」の開発・育成の観点から振り返る機会を充実させること、正課外のような活動を含め、「共立リーダーシップ」育成のための学修機会を増やすこと、授業において「共立リーダーシップ」育成のための学修活動を充実させることの3点の回答率が高く、特に重要な点として認識されている。

「リーダーシップの共立」の確立のための具体的な意見や提案については、「共立リーダーシップ」を具体的に説明し発信すること、所属を超えたグループ活動を行うこと、グループワークを活用すること、他者評価を取り入れることが必要との記述があり、教員に対しても「共立リーダーシップ」について理解・認識合わせをすることが必要といったものがあげられた。このことから、リーダーシップ活動を取り入れた学修機会の充実や、活動における「共立リーダーシップ」の観点からの振り返りの機会の充実が求められており、また大学としても「共立リーダーシップ」を学内により浸透させる必要があることがうかがえる。

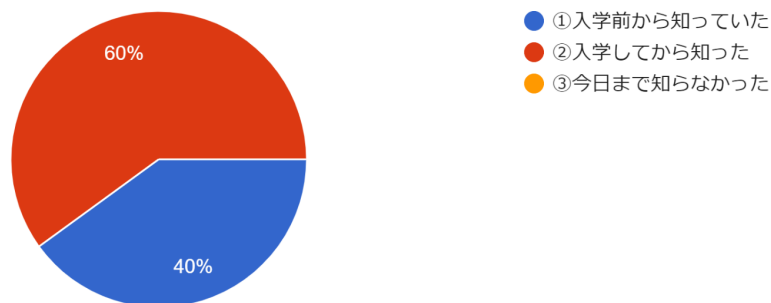
その他、学生評価委員会の運営に関することでの意見感想については学校の教育活動という普段は考えないことに目を向けられたことや、さまざまな学部の方の視点を知る良い機会となった、前回に比べ今回は最初から自分の意見を言えたので少しレベルアップできた、実施日を通常授業期間内に設定してほしいなどの意見があった。

4. 事前アンケート結果の概要：

総回答件数：15件/20人

【設問1】 共立女子学園が「リーダーシップの共立」を目指して、様々な取組を進めていることを知っていましたか。

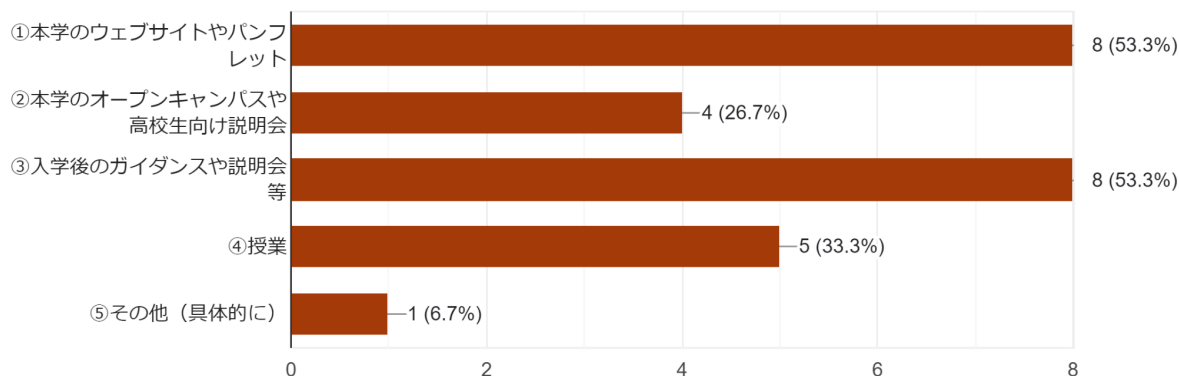
【設問1】 共立女子学園が「リーダーシップの共立...々な取組を進めていることを知っていましたか。
15件の回答



【設問1-2】 どこで知ったかを教えてください。

【設問1-2】 どこで知ったかを教えてください。

15件の回答



⑤その他（具体的に）を選択した場合は具体例を教えてください。

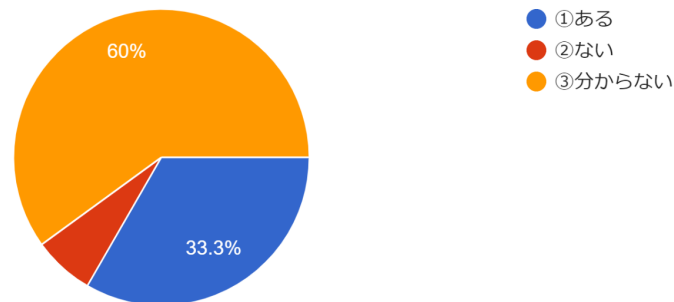
回答としては、「キャリア関係の授業で、よく「共立リーダーシップ」の内容を説明していた。」「通学で使う神保町駅の広告」などの記述があった。

【設問2】 本学が掲げる共立リーダーシップとはどのようなものか知っていることを教えてください。知らない場合は無記入で大丈夫です。

共立リーダーシップについて知っていることとしては、「立場が関係なく全員が発揮できる。」「周りと協働し、課題解決を図る力。」などの記述があった。

【設問3】 「共立リーダーシップ」の重点科目（カリキュラムマップにおいてDPリーダーシップに◎のある科目）を受講したことがありますか。

【設問3】 「共立リーダーシップ」の重点科目（カ...に◎のある科目）を受講したことがありますか。
15件の回答

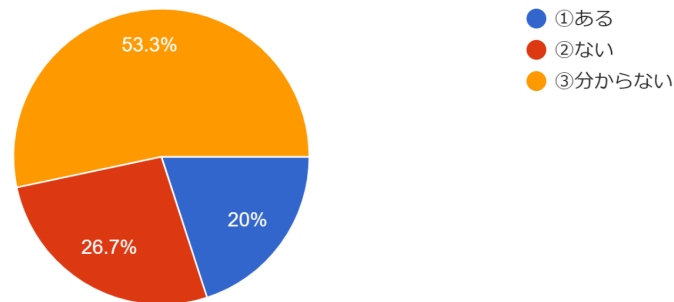


【設問3-2】 どのような科目で何を学んだか簡単に教えてください。

回答としては、「リーダーシップ関連のものすべてで、リーダーシップは誰もが立場関係なく発揮できるものだということを学んだ。」「看護系科目で、グループワークを通して、他者の特性を認め合うこと、主体性を持って取り組み、自分の力が足りない部分では他者の協力を受け入れることを学べたと思う。」などの記述があった。

【設問4】 「共立リーダーシップ」に関係する正課外活動に参加したことがありますか。

【設問4】 「共立リーダーシップ」に関係する正課外活動に参加したことがありますか。
15件の回答



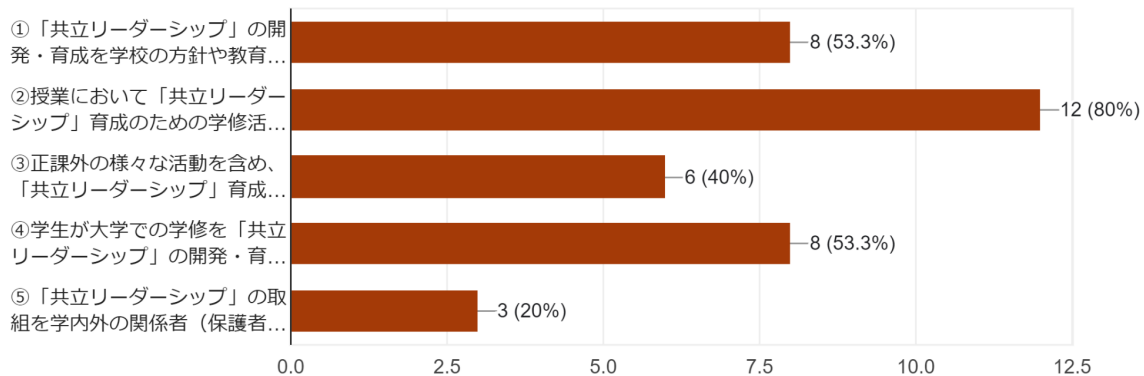
【設問4-2】 どのような活動で何を学んだか簡単に教えてください。

回答としては、「リーダーシップキャラバンで、他校の方とも関わり、リーダーシップの発揮の仕方を様々な角度から学ぶことができた。」などの記述があった。

【設問5】 「リーダーシップの共立」確立に向けて、重要だと思う取組みを全てお選びください。

【設問5】「リーダーシップの共立」確立に向けて、重要だと思う取組みを全てお選びください。

15件の回答



【選択肢】

- ①「共立リーダーシップ」の開発・育成を学校の方針や教育プログラムに反映すること
- ②授業において「共立リーダーシップ」育成のための学修活動を充実させること
- ③正課外の様々な活動を含め、「共立リーダーシップ」育成のための学修機会を増やすこと
- ④学生が大学での学修を「共立リーダーシップ」の開発・育成の観点から振り返る機会を充実させること
- ⑤「共立リーダーシップ」の取組を学内外の関係者（保護者や企業）や社会全般に積極的に発信すること

5. 当日委員会活動の概要：

開会の挨拶で学生評価委員会の意義、役割を確認し、事前アンケートで答えたこと（取組みについて知っているか、具体例や参加状況）をもとに、「リーダーシップの共立」に関する知識や経験を出し合った。大学・短大側（高等教育開発センター）から「リーダーシップの共立」の説明や学内での具体的な取組みについての説明があり、その後「『リーダーシップの共立』をより実質的なものにするために」についてグループワークを行った。

グループごとに説明を受けた感想と現状の課題、具体的な改善策や提案について発表があり、大学・短大側からフィードバックを行った。

グループワークでまとめた意見の発表の内容は次のとおりであった。

Aチーム

- ・ループリックほど詳しくリーダーシップのことは知らなかったが、振り返ると様々な授業で当てはまると感じた。
- ・現状の課題として、グループワークでリーダーシップを発揮する機会があったが意識して取り組んでいなかったため、身についていないと感じている。
- ・ディプロマ・ポリシーの説明も大切だが、大学として大切にしているリーダーシップの説明をもう少し詳しくしてほしい。
- ・授業の最初で目標設定をし、最後の授業で振り返る機会を設けるといった強制的にリーダーシップを意識する機会が必要である。
- ・レポートよりもGoogleフォームやクリッカーなどで簡単に評価できるものがあると良いのではないか。
- ・グループワークは1人がリーダーシップを発揮すれば結果は良くなるが、一人ずつが個人のリーダーシップを発揮するには結果よりも過程が大事で、その過程を大事にしてほし

い。具体的にはMVPなどでメンバー評価を設けたり、グループワークをしている間の教員からの見守りで評価をつけたりといったワークの過程を評価してほしい。

・リーダーシップについて全く興味がない学生もいると思われるため、リーダーシップについて就活で利用できるなど学生には具体的に説明したほうが良い。

Bチーム

・対象科目が372科目もあって驚いたが、説明があるまでここまで科目数が多くあるといった認識はなかった。

・現状の問題は共立リーダーシップはグループで培われるが、その中でもグループでも積極的な人に限られてしまうこと、できている項目やできていない項目の差、包容性・多様性が固定的なメンバーに限られてしまいグループワークを行った際に全員ができていないといえるところである。

・授業でのリーダーシップは積極性がある人に限られてしまい、主体性があるなしの差がグループワークの失敗の要因になってしまい、リーダーシップを実感できていない。

・固定的なメンバーに限られてしまっている包容性や多様性の改善策として、複合的な授業を増やすことが良いのではないか。学年や学部を越えてグループワークを行っている授業では様々な意見が出ているのでグループワークとして良い授業になっている実感がある。

・サークルは部活動のイメージが強いため、活動している中でも作業のみをしてしまう人も多く、リーダーシップをアピールすることで主体性が出るのではないか。

・過程を見ることが必要で、ループリックを活動の最初と最後に見せるのではなく、自分が今できていることでできていないことを確認することができるため都度積極的に取り入れていくことが大切であるといえる。

・グループワークをするにあたり、教員から目標設定や共有はされているが、自分で目標設定や共有はしていないため自分で行うことも大切だと感じた。

・他大学の例として、チャレンジゼミナールというものがあり、学内外の授業でポイント制度があり、2年間でポイントをためると単位につながるという活動がある。共立アカデミーを積極的に利用する活動にもなるため、共立もそのような活動をするとういのではないか。

Cチーム

・リーダーシップ教育を実施する科目が372科目あることに驚き、全員が履修していることに気が付いた。

・ループリックを確認し、自分が受けている授業で共立リーダーシップは養われていると感じた。

・問題はリーダーシップについて認識が低いことである。

・現在の学生の中には皆が協力していくというよりも1人が引っ張っていくと認識している学生もいると思う。

・改善点はリーダーシップに対応している授業で「共立リーダーシップ」の説明をする。

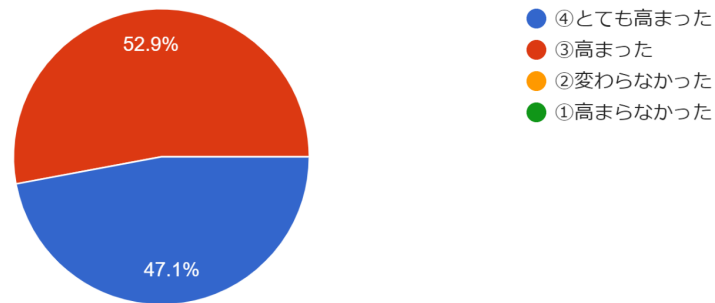
・基礎ゼミナールの1回分の授業を使い、リーダーシップのループリックの説明をすると良いのではないか。

6. 事後アンケート結果の概要：

総回答件数：17件/20人

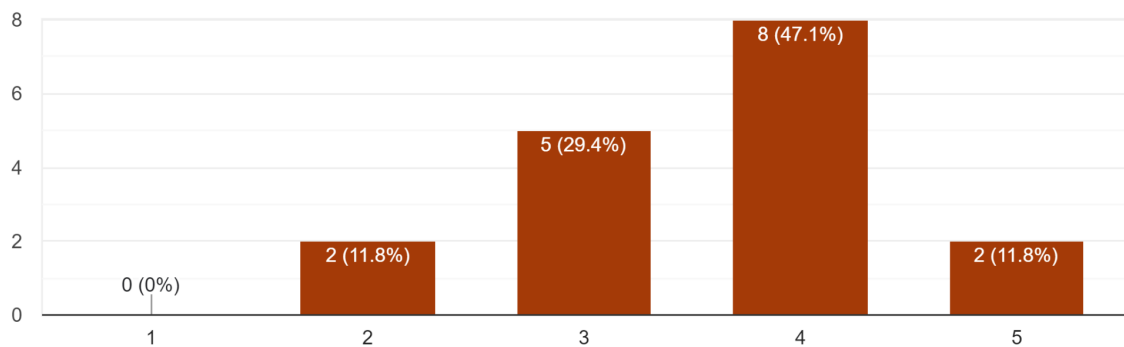
【設問1】本委員会での協議を通して、「リーダーシップの共立」の取組みについて関心が高まりましたか。

【設問1】本委員会での協議を通して、「リーダー...共立」の取組みについて関心が高まりましたか。
17件の回答



【設問2】本委員会で得た知見をもとに、現在行われている「リーダーシップの共立」の取組みが十分に実施されているかを5段階で評価してください。1(低い) < 5(高い)

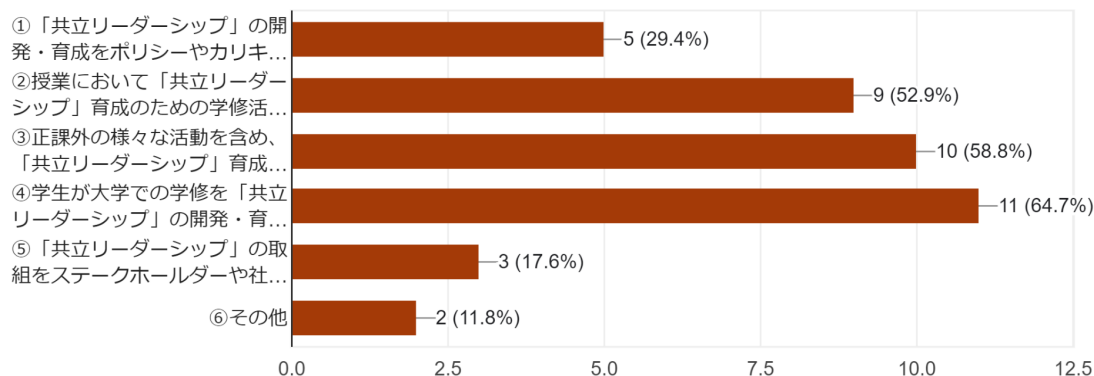
【設問2】本委員会で得た知見をもとに、現在行われ...階で評価してください。1(低い) < 5(高い)
17件の回答



【設問3】改めて「リーダーシップの共立」の確立に向けて、どのような点が重要になると思いますか？当てはまるものを選択してください。（複数回答可）

【設問3】改めて「リーダーシップの共立」の確立...はまるものを選択してください。（複数回答可）

17件の回答



【選択肢】

- ①「共立リーダーシップ」の開発・育成をポリシーやカリキュラムに反映すること
- ②授業において「共立リーダーシップ」育成のための学修活動を充実させること
- ③正課外の様々な活動を含め、「共立リーダーシップ」育成のための学修機会を増やすこと
- ④学生が大学での学修を「共立リーダーシップ」の開発・育成の観点から振り返る機会を充実させること
- ⑤「共立リーダーシップ」の取組をステークホルダーや社会全般に積極的に発信すること
- ⑥その他

「⑥その他」を選択された方は、具体的に教えてください。

回答としては、「インクルーシブな授業を増やすこと。」「共立リーダーシップについて理解した上で学ばないと、共立リーダーシップが身についていると感じることや達成感が得られないと思う。そこで、共立リーダーシップについて学ぶ時間を基礎ゼミナールなどどの学部も共通する科目で1回作り、すべての共立学生に共立リーダーシップについての理解してもらうことが必要だと思った。」などの記述があった。

【設問4】自身のリーダーシップを高めるために、今後意識して取り組みたいことがあれば、教えてください。

回答としては、「自分自身がチームに貢献することはもちろん、共立リーダーシップに当てはまる活躍をした仲間にもポジティブな声掛けをすることで、共立リーダーシップを通して互いを認め合う雰囲気を作っていきたい。」「チームワークを必要とするプロジェクト等に取り組みたい。自分の行動による周囲への影響を客観視し、今後活かしていきたい。」などの記述があった。

【設問5】「リーダーシップの共立」の確立のために、意見や提案があれば教えてください。

回答としては、「ルーブリックを活用し、授業内での自己評価や他者評価に取り入れる。グループワークなどのリーダーシップ育成のための活動の中で、結果だけでなくその過程での成長を重視するために他者評価を取り入れる。」「授業のはじめと最後に自身のリーダーシップの成長について振り返る機会があれば、より意識しやすく、自信にもつながると考える。」などの記述があった。

【設問6】 その他、学生評価委員会の運営に関することでのご意見・ご感想をお聞かせください。

回答としては、「定期試験期間ではなく、通常授業期間内に実施していただけるとありがたい。」「2回の委員会を通して、1回目は緊張もありなかなか自分の意見を言えなかったのですが、今回は最初から自分の意見を言えたので少しレベルアップできたかなと思いました。この委員会も共立のリーダーシップの1つなので参加できて良かったです。」などの記述があった。

以上